

は し が き

「ドラマの英語」の聞き取りの楽しさ・難しさはどこにあるのでしょうか？ これは、英語の聞き取り全般の中で、「ドラマの英語」の特色を考えると分りやすいでしょう。日常、日本で、我々が耳にする英語にはさまざまなタイプがあります。テレビやラジオのニュースキャスターの英語、大学での講義や講演の英語、教材のモデルとしての英語、そして映画やテレビ・ラジオでのドラマで登場人物たちが話す英語などです。

ニュースキャスターの英語、講義・講演の英語、教材モデルの英語などには、あらかじめ原稿があり（この意味では「文語（書きことば）」ともいえます）それに忠実に、かつ注意を払って発音されますから、発音そのものは聞き取り易いはずですが。あとは、難しい語彙や表現・構文などが使われていたり、あるいは内容が抽象的であったり、複雑（専門的）であったりすることが聞き取りの障害になります。一方、「ドラマの英語」は登場人物たちが日常生活を送る中での出来事が題材となるわけですから、基本的に「対話（dialogues）」で構成されます。つまり、「口語（話しことば）」で成り立っています。

では、「生活会話」で展開されるドラマの対話スタイルの英語が、原稿を読む場合や物語調の（narrative）発話スタイルの英語と異なる点は何でしょう。すでに指摘したように、発音そのものに払われる注意度が異なります。「生活会話」での英語の発音は、より不完全で、より速く感じられ、聞き取りにくい印象を与えます。発話者がそれほど発音に注意を払わないかのように発音する（実は、ドラマにもちゃんとシナリオがあって、役者はそれを元に何度も練習を重ねてから発音していますが、あくまで日常の「生活会話」を念頭に置きながら発音しています）からです。それはなぜかというと、「生活会話」では、場面があって、誰が、誰に向かって、どんな気持で、どんな内容を発するのかははっきりしています。つまり、このような視覚的な情報が、発音の不完全さを補いながらコミュニケーションが成り立っているからです。

したがって、「ドラマの英語」で聞き取りの練習をする際には、このような視覚的情報（映像）に十分注意を払い、音声を聞く姿勢が必要になります。また、「ドラマ」には「筋書き」があります。ストーリーの展開を予測したり、理解する楽しみは、日常の「生活会話」の比ではありません。これがドラマの第一の魅力といっても良いでしょう。現代の英国のコメディーを楽しみながら、英語の聞き取り能力を向上させてください。また、このコメディーは初めから英語学習教材のために作成されたものではありませんので、やや難しいと思われる方がいるかもしれません。全てを聞き取ろうとせず、自分のレベルと目的に応じて目標を決め、それを目指す努力をしてください。

2002年1月

杉本豊久